

浅川改修計画原案の流域説明会 概要（朝陽地区）

平成15年5月26日 19:00～20:40

長野市立朝陽公民館

参加者：26名

Aさん

北堀地区で市道の側溝が溢れるため水路改修をしているが、下流地区から断面の拡大は困るとの申し出により工事を中止している。鐘鑄用水の4m³/sのバイパスが北長野駅から水路が昨年開通している。これについて、「ダムが完成により治水が出来る。その時間差で4m³/s位なら流していい」との下流の地域で覚書き（約束）があると聞く。それは事実か、書類はあるのか。

北堀地区に水害が起こるのが目に見えているため、昨日、都市型水害に備え土嚢作りを行った。長沼だけでなく、市街地の内水対策をどのように考えているか。遊水地、貯水池を、この事業を合わせて造るべきだと思うが、話がなかった。

360m³/s以上の超過流量時の対応はどの様にするか。災害を天災で片づけるのか。

流域協議会の立ち上げ後はどの様に行い、いつ結論が出るか聞きたい。先送りのように感じる。

昭和62年に流域関係市町村による協議会が発足しているが、何故使わないか。同じような組織に感じる。

当地区も水害を受けているが、地域の住民はどの様な案にせよ、水害が無くなればよいと思っている。

県

鐘鑄用水の関係、長野市の雨水排水を浅川に流入させる事については、下流住民と意見の差異があったと聞いている。当時は浅川ダム建設等もあり、ダム計画の許容範囲内だとの形で了解されていると聞いている。長野市が行っているため、我々は文書的なモノは確認していない。

今日は内水対策、流域対策の話はしてない。河川改修と流域対策で浅川の治水対策を考える基本姿勢に変わりはないが、別班で流域対策を策定中、まだ煮詰まってない。7月以降に説明出来るスケジュールとなっているのでお待ち頂きたい。流域対策では、遊水地、上流での森林整備等があるが、時間がかかる。

超過洪水について、今回、河川改修は1/50の雨量基準に設定、これに流域対策を合わせ、従前の100年に1度の水準としたいと考えている。計画以上のモノに対しての対応を天災として片づけるなどのお話だが、雨、流量に対する対応が絶対に大丈夫というようにはできない。河川計画は想定される流量を基に、ダム、河川の断面等を計画する。それを越えるモノへの対応は難しい。ハード面のみでなく、避難対策等ソフト面の治水対策も考えて行かねばならない。

流域協議会は、内水対策を含めた河川改修について、造る前、造っている時、造った後のフォローアップを含めた長いスパンで考えている。河川改修においてはデザインの事、内水についての考え方、維持管理を含めた息の長いモノとしたい。既存の協議会とは、参集範囲、検討内容が異なる。地域要件はあるが、参加自由である。

Aさん

1/100 から 1/50 になったきちとした回答がなく、非常に残念。1/100 で行うとした計画を 1/50 にするなら、1/100 と 1/50 の間の水害は人災だと思う。協議会に長野市の話が出たが、長野市が挟まっても河川管理者は県である。その責任を明確にすべきである。流域協議会はお楽しみ会と感ずる。そのような会の必要性は分かるが、流域協議会という大それた名前にしないこと。

Bさん

只今の意見には多少の誤解があると感じられた。

鐘鑄川バイパスの古里地区との協議とか、浅川への流入量を抑制する話は、運動公園の地下貯留を 1/4 にしたことが問題である。朝陽地区は夕立程度の雨で側溝が溢れる都市型水害、運動公園の地下貯留の問題、バイパスの流下能力の問題など総合的な検討が必要である。浅川改良事務所と流域対策班は長野市と具体的に詰めて施策を探って頂きたい。

360m³/s を越える超過洪水については無責任だとの話であるが、基本高水 450m³/s が 1/100 の答えであるかも分からない。これは流量調査が行われていないためである。とりあえず手が付けられる下流分のダム一次分の改修について、早く手を付けてほしい。それで不足となれば2次、3次の改修をして頂ければ解決すると思う。

流域協議会は是非進めてほしい。総合治水対策協議会があるではないかとの話があったが、ダム反対派の議員は外されたり、区長以外の一般の住民が意見を言える場ではない。色々な人の知恵を出す場として必要である。特定の人達だけでない協議会が必要。

県

対策協議会は行政的連絡調整の意味が大きかった。流域協議会は、住民の御意見を頂く一方で、皆さんに現状を理解して頂く面もある。広く意見を頂くのが主旨。御理解頂きたい。

Cさん

千曲川合流点は改修済み区間との説明であったが、逆流を受けやすい河口と聞く。その点も考慮した「改修済み」なのか。

浅川橋から小布施橋間で地下放水路を造る案が考えられるが、流域的な水の流れは技術的にどの様になるか

長野市は雨水貯留に補助を出している。県は各戸貯留を考えているか。一世帯 200 溜めた場合の試算を示して頂きたい。

1 2 カ所の説明会の最終日である。これに対する事前の告知をどの様にしたか。また知事が最初だけ出て後は出ていないのは、どの様な理由か。私の所に回覧が来たのが5月9日である。知事が出た7日に参加出来なかった。PR、告知はメディアを使っていたとは思いますが、案内は10日位ないといけない。

県

千曲川合流点、浅川の水が逆流するとの話だが、浅川の河床は千曲川の計画河床に整合させている。千曲川本川の水位が上昇すると浅川に千曲川の水が逆流するが、逆流防止のため国は千曲に樋門を設置している。逆流しやすい構造ではない。

浅川中流から千曲川本川への放水路は遠大な構想だと思う。途中から千曲本川にのりなのか、排水機場の問題、更埴市～飯山市までの全体計画を考えた中では、難しいと思う。

雨水の各戸貯留についての試算は難しく、出ていない。降雨による流出を緩和する効果はあると思われるが、貯水槽が空の状態か、過去の降雨が溜まっているか分からない部分があり、数値化

するのが難しい状態。

説明会の回覧は、御迷惑をおかけした。5月7日の全体説明会に知事出席が決まり、私共でその旨の通知を作成し、長野の浅川流域地区、豊野町、小布施町に回覧の必要部数を5月1日に発送した。連休を挟み時間もないため、区の役員に直接送った次第である。後に長野市に聞いたら、月2回の各戸配布に合わせて頂きたいとの指摘もあった。一部のメディアでの紹介、有線放送、関係諸団体への通知等で多くの方の参加をお願いしたが、行き渡らなかった点、お詫びする。

Cさん

各家庭の雨水貯留については、県は具体的な検討を行い、長野市と並行して補助を出すべきだ。次回説明会までには試算結果を出すべき。

Dさん

改修工事の工期はいつまでか。現状のままでは、どの位の水量まで耐えられるか。

県

原案がまとまった段階であり、流域協議会から意見を聞き、今年度中に成案として、計画を国に説明することとなる。来年度以降の実施計画は決まっていない。具体化した段階で説明となる。石渡付近は既に天井川の改修を実施してある。160m³/sの流下能力である。

Eさん

検討委員会での議論では、基本高水はダムの有無を含め色々な数値が論議されていた。不確定な自然を相手に、水害をどう無くすか、450m³/sを再検証するとのことである。河川改修は、河床掘削、拡幅、嵩上げがあるが、下流に行けば流量が増える。残り2割の流域対策が固まっていない。森林、遊水地計画が並行しての改修案であれば理解出来る。これから梅雨に入る。平成12年から何年かけても未だ方向性すら見えない。浅川は毎年氾濫している。今回の河川改修案だけでは不十分である。残りを早急にしてほしい。

区間 は土砂浚渫をしていない暫定区間といわれた。20cm程の掘削では直ぐ堆積するので改修と思えない。

眼鏡橋は直壁構造にするといわれたが、この様な川は見たこともない。前後の流れはどの様になるのか。

県

土砂の件は各地で意見が出た。下流に土砂を流さないために、上流に砂防的施設が必要であると思っている。下流部の河床勾配は1/1200と緩く土砂が堆積するため、維持的浚渫もしている。今回の改修工事では取り切れていない土砂を浚渫する計画も含まれている。

眼鏡橋部分は、新幹線、JR信越線、都市計画道路などで固定された難しい部分なので、上下流含めた一定区間を直壁とする。上下流部ではすり付け区間が必要となる。これらについては流量計算をして対応していく。

Fさん

多くの人のお話を聞くと、生命、財産を守って、水害だけは防いでくれとのことである。ダム地点の勾配は急。水は勢いが付くと力が付く。流速を遅くすれば違いが出てくると思う。計画は河床を掘るか、嵩上げをするかであるが、掘削と嵩上げを併用する案はいかがか。直壁構造にすれば水量が確保出来るが、その様な考えはいかがか。

県

上流部は河川勾配が急であり、下流部は緩い。これにより浅川が天井川化した経緯もある。流速を遅くすると河川断面が大きくなり用地補償が出てくる。これは河川改修の基本でもあり、従前の計画でもある程度の流速をもった計画にしている。上流点と下流点は決まっている。この間は現状にあった縦断計画でないと、天井川や谷地形になる。掘削と嵩上げの併用は、用地の買収や橋梁の架け替えとなる。この様な負担をかけない計画とした。直壁構造にすると流量確保は出来るが、河川全体は行いたくない。国の承認がもらえない。護岸勾配が緩ければ環境上も良い。

Aさん

従前の計画では平成17年に完了の予定であったが、今回の計画は期限が示されていない。なお先ほど話した協議会とは、関係市町村と国の出先機関との連絡協議会のこと。

Gさん

素人には基本高水が分からない。また、基本高水の計算は川のどの地点か。土木学会等で数式はあるか。天災は避けられないと思うが、出来るだけ努力することが必要である。

農業のマルチなど他人だけを攻めるわけでないが、1/50、1/100をどの様に計算しているか知りたい。利根川が1/100で改修したが、溢れたと聞く。簡単ではないと思うが理念を教えてください。

県

基本高水流量は河川整備計画を策定する上での基準となる流量である。算定方法としては、50年に1度(100年に1度)起こりうる雨量は、過去の年最大の雨量データから確率統計処理する。雨量から川に流れ出る流量を算出して、貯留関数法で流域全体に雨を降らせる計算をしている。この方法は全国的に採用されている。各地点により流域面積が上下流で異なるため、浅川に入る雨水が異なり流量が異なってくる。浅川の場合、区間を5分割にしている。この算出結果が資料7頁になる。この流量から川の断面を決めていく。基本高水流量は最下流の千曲川合流点における流量である。

Gさん

浅川流域全体の雨量を各地点で採るのは不可能と思う。浸透水も場所により違ってくると思う。このため科学的といえれば科学的と思うが、科学的でないといえれば科学的でない。

県

浅川流域のデータは、長野測候所、戸隠、中野、須坂、データが過去からある近傍のデータで、これを基に計算している。

Hさん

12年前に飯山に住んでいた。千曲川が2年連続して、増水により破堤した。そのために川幅を広げ、川底を掘ったら川の流れが速くなった。堤防を嵩上げし、強化したら流速が早くなったが破堤しなくなった。川底を掘るといことは水の流れを速くするから増水しないと思います。